

一宮北 学園通信

宍粟市立一宮北小学校
宍粟市立一宮北中学校

教室ではできない体験を

一宮北小学校長

短い梅雨が明け、暑い日が続いています。学校は間もなく夏休みを迎えます。本年度も無事一学期を終えることができるのは、ひとえに保護者、地域の皆様のご理解とご協力のおかげです。心より感謝しています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、まだまだ収束に向かっているとは言えませんが、ありがたいことに学校行事は、ほぼ予定通り実施できています。小学校のプールにも、三年ぶりに子どもたちの声が戻りました。もちろん、感染症対策のため控えめの歓声ですが、それでもキラキラ光る水しぶきの中を泳ぐ子どもたちの笑顔に、教師の不安（水への恐怖心はないか、泳力が低下してはいないか等）は、消されてしまいました。

さて、先日七月八日に海と山の交歓会（海編）を行いました。昭和三十五年から六十年以上も続いている淡路一宮

小学校（旧郡家小学校）との交歓会で。ここ二年間は、お互いに訪問できず手紙のやり取りやWeb交流のみでしたが、今年は淡路で二校の児童が一緒に、魚さばき体験や海水浴を楽しむことができました。子どもたちは、お互いの名前や顔、淡路の自然について、事前に手紙やWeb交流で知っていたのですが、実際に行つて会うと、淡路一宮という場所のことや、人のことが、それまでの何倍もわかり、親近感がぐっと増しました。

絵や言葉ではなく、体験の中で何を感じ取るか、学ぶかは人によって違いますが、体験することは多くの場合、それまでの知識をさらに広げ深めて新しい「知」をもたらします。そして、あらたな好奇心や探究心を芽生えさせます。

子どもたちは、瀬戸内海でとれた大きなアジの三枚おろしにチャレンジしました。少しむずかしかったけれど、全員みごとにやり遂げました。三枚おろしの大変さを体験することで、ふだん食卓に出る魚の陰に人の苦労があることをリアルに想像できるようになり、そこに感謝を見いだした子もいるでしょう。後片付けでは、「僕がこれやるわ」「ありがとう」といった淡路の友達との会話の中に、隠れた気遣いや緊張感を

感じとり、もつと仲良くなりたいたいと思っただかも知れません。多賀の浜での海水浴では、とぎれなく寄せては返す波に不思議を感じ、しよっぱい海の水をなめながら思い切り遊んだことで、これまで自分が描いていたよりも多面的な浜の概念が子どもたちの中に形成されたのではないかと思います。



「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことはわかる」とよく言われます。この出展は、『荀子』儒効篇の「不聞不若聞之、聞之不若見之、見之不若知之、知之不若行之」ですが、体験活動の大切さ、また、実践できる力を養うことの大切さをよく言い表していると思います。

淡路での体験が、それまでの教室での学習とつながって、より広く深い「知」となったように、子どもたちが本当の意味で「知」を手に入れ、「生きる力」を身につけるには、勉強だけでなく体験が必要です。

夏休みは学校ではできない様々な体験ができる貴重な四十二日間です。まだまだ感染症対策は必要ですが、ぜひ、自然や人とたくさん関わる機会にしてほしいと思います。何も特別なお出かけをしなくても、お子さんと一緒にサンドイッチを作って庭で食べるとか、夜空の星を眺めることでもいいのです。一緒に面白がったり、不思議がったりして楽しむことで、子どもの感性が磨かれ、好奇心や探究心が生まれます。それは、学校での勉強を主体的なものにしていきます。この夏休みは体験をとおして、子どもたちの学びをより確かなものにするのができたら、と思います。

保護者の皆様、地域の皆様、まずは安全な夏休みになるよう、見守りと声かけをお願いします。そして、ぜひお子さんと一緒に夏休みならではの楽しい体験をしてください。

一宮北学園自治会別ボランティア活動についてお知らせ

七月二十一日（木）の午前八時から九時までの約一時間、一宮北学園の児童・生徒が自治会ごとに分かれて、ボランティア活動を実施します。活動内容は、地域のゴミ拾いや公民館の草抜きなどです。

